

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表:令和 6年 3月 1日

事業所名 夢たまご 城東古市北館教室 (開所初年度評価)

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		設置基準のスペースを確保し、適切なスペースが確保されています。広いスペースを利用し体を使ったプログラムにも取り組みます。	
	2 職員の配置数は適切である	○		手厚い支援ができるよう、設置基準配置人数以上の職員配置をしています。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		室内、バリアフリー化となっております。わかりやすい構造となっております。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		生活空間の清掃、消毒は毎日行なっております。空間づくりも、ゆったりと過ごせる広さを保つようにしております。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		常に行ない、全職員に周知しています。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者様のご希望や意向を承り、業務改善に取り組んで参ります。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて公開します。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在実施していません。検討いたします。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部研修、内部研修を定期的に行ない、スキル向上に努めます。	
適切な	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		アセスメントを行い、ニーズや課題を分析し個別支援計画を作成します。	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		S-M社会生活能力検査(日本文化科学社)等のツールを利用し、実行を検討します。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		保護者様とも連携、連絡を常に取り、支援内容を設定し、プログラムへの取り組み方について常時思索し対応します。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		計画に沿った支援を行ないます。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		児童に沿った活動プログラムの計画をチームミーティングで考えています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
支援の提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		固定化しないようにチームミーティングでアイデアを出し合い、児童に沿った活動プログラムの計画を考えています。季節行事も取り入れて、季節に沿った活動も実施します。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		児童の状況に応じて、複数の活動プログラムを考え、児童発達支援計画を作成します。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援開始前に職員同士で打ち合わせを行ない、適切な支援ができるよう、確認します。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後、職員間の振り返りを行ない、情報共有をし、次回につなげます。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		業務日報、個人記録などを取ることは必須とし、支援検証、改善につなげます。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		保護者様と密に連携を取り、見直しの必要性を判断します。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		関わりの深い職員が参画しています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		関係機関との連携により、支援に役立てていきます。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者様の了解を得て、情報共有を行ない相互理解を図ります。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者様の了解を得て、情報共有を行ない相互理解を図ります。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		助言をいただきながら、支援をします。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		現在実施していません。検討いたします。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		協議会に積極的に参加しています。また、城東区児童部会にも月1回参加し、他事業所との連携や支援に関する情報も得ています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		保護者様と密にご連絡を取り、課題などの共通理解を持つ場を作ります。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		必要に応じて、ご相談の中でご提案します。	
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		ご契約時に丁寧にご説明します。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		日々のプログラム活動を中心に利用者様の状況も踏まえ、支援を行ないます。計画を設定し、保護者様の同意を得て行ないます。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者様と密にご連絡を取り、課題など共通理解を持ち、お悩みの相談を頂いた際には助言、支援を行ないます。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		現在実施していません。検討いたします。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		保護者様からのご相談やお申し入れについて対応体制を整備しています。迅速かつ適切に対応するように努めます。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ブログなどでお子様や行事の様子などをお知らせします。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報の取扱いに細心の注意を払います。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		保護者様と密にご連絡を取り、意思疎通や情報伝達のための配慮をします。	
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		現在実施していません。検討いたします。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		各種マニュアルを策定しております。また定期訓練を実施しております。ご利用様にご安心頂けますように実施についてお伝え致します。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期避難訓練を年2回実施します。第一回、秋に訓練を行ないました。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		契約時、確認し、ご利用者様の各種情報を共有します。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		全ご利用者様に食物アレルギー有無について、伺います。アレルギーがある際には対応を取ります。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット事例を社内ミーティングなどで共有します。発生した際にもヒヤリハット報告書を作成し、全職員に周知します。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		社内ミーティングにて、職員へ周知します。虐待防止の研修を行なっています。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		やむを得ず身体拘束を行なう際には保護者様の了解を得た上で、児童発達支援計画に記載します。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。